
NARROW ONLINE-ナロウ・オンライン-

正義と真実はひとつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

N A R R O W O N L I N E - ナロウ・オンライン -

【Nコード】

N 7 1 0 9 Y

【作者名】

正義と真実はひとつ

【あらすじ】

この作品はフィクションです。実際の人物・団体・事件などは、いつさい関係ありません。

もし似ていても単なるシンクロニシティです。

シンクロニシティを知らない方は各自調べてください。

ナロウ・オンラインがスタートして数年……俺はいつものように盗賊ギルドメンバーをPKしまくっていた。
運営からのアカウント停止？ 関係ないね。

俺には『例の力』があるからな。
そう思っていた時期が俺にもありました。
まさかデスゲームとは……運営仕事しろ！

設定とか（ネタバレ多し！ 読まなくても大丈夫です）（前書き）

設定とか。

ちなみにこの作品はフィクションです。実際の人物・団体・事件などには、いっさい関係ありません。

設定とか（ネタバレ多し！ 読まなくても大丈夫です）

【俺】

一応主人公で冒険者

ゲーム内で過去に起きた或る事件以降、盗賊ギルドそのものを激しく憎んでいる。PKのせいでカルマは悪。プレイヤーキラー

【伊蔵】（いくら）

盗賊ギルド『白理』バクリのギルドマスター。カルマは悪。

口癖は「そんなことも知らないのですか？」 凄く……イラツとします。

凄腕の巨大ブーメラン使い。色々な意味で。

ただし本物の馬鹿。ただし本物の馬鹿。

大事なことなので二回言いましたwww

リアルでは40過ぎの独身メンヘルBBA。

【王国ハム太郎】

盗賊ギルド『ブルトニウム』のギルドマスター。カルマは悪。

歌詞無断掲載等の盗作行為や、違法な広告宣伝等、色々とルールを無視したグレー行為や犯罪行為スレスレな悪行を繰り返す。

リアルは従業員百人をアゴで使う『法律IT企業（笑）』の社長…

…という妄想を抱く零細IT企業の社長。（自分を含めた社員3人正座が大好き。（爆）

【青葉寄生】（あおばよるつ）

盗賊ギルド『青蟲』のギルドマスター。カルマは悪。

彼の隠行固有能力『検索除外中』はゲーム内でもトップクラス。

リアルは引き籠りなコミュ障持ちのエロゲ割れ厨であり、好きなエ

ロゲは『絶対 子作り許可証強制遵守!!』(笑)

【浅墓】(あさはか)

一見普通の冒険者だが、何故か同時に学園、それもゲーム内でも底辺レベル校の『馴合学園』に通っている。カルマは悪。

普通ならば訓練所(学園を含む)を出てから職に就くのがゲーム内のセオリー&訓練と仕事の同時平行は非常に効率が悪いので、端から見れば異常行為にしか見えない。

リアルは高卒の金属磨き屋見習いで、出会い系にハマっている。

その際、何故か職業を『エンジニア』と詐称していたりする(笑)

【原石爺】

多くの弟子という名の奴隷を持つ謎の人物。カルマは悪。

元冒険者だが、今は冒険者を甘い言葉で勧誘し弟子として安い賃金で困っている。

本来なら成果の等分割が最低の義務となる冒険者ギルドとして登録しなければならぬのだが、上手くごまかしながら詐欺紛いの行為に手を出しているトカいなトカ。

たまに弟子達が冒険で成功すると『奴は儂が育てた!』と言って成果を全て横取りし、失敗したら『能無しが!』と見捨てるというダブルスタ&違法行為を平然と繰り返すようなイイ性格をしている。

リアルでは地方の弱小零細出版社社長だが、長年持病を患っている。自著書は『治つたよ!』……あれ?

タイトルに偽りありじゃね?(笑)

まだまだキャラが増えるよ! やったねたえちゃん!

用語集

【盗賊ギルド】

本来は公式には存在しないギルドだが、運営内にいる馬鹿がリアル

で某盗賊と知り合いだったために、非公式ながら存在が許されている。

【運営】

正式名は株式会社『タンゴ・プロジェクト』。

社名の由来は端午の節句に設立したという単純な理由による。

何故かゲーム内で不適切な行為である窃盗を繰り返す盗賊ギルドに甘く、逆に窃盗行為を批判した真つ当な冒険者のアカウントを消しまくるというマジキチ行為を平然と行うオワコンな組織だったりする。

ネット上の巨大匿名掲示板『いちちゃんねる』では、『運営仕事しろ！』『ゴミクズ運営』等ボロクソに言われており、中には『盗賊ギルドと裏で繋がっていて、リアルマネートレードを黙認している』や『盗賊ギルドが実は運営の社員をしていて、炎上マーケティングを仕掛けている』とまで主張する者までいるが、本当かどうかは定かでは無い。

設定とか（ネタバレ多し！ 読まなくても大丈夫です）（後書き）

HDDの肥やしをブチ撒けてみた。

プロローグ 『黒いナニカ』（前書き）

この作品はフィクションです。実際の人物・団体・事件などには、
いっさい関係ありません。

プロローグ 『黒いナニカ』

その男は森の中を必死に逃げていた。

その原因は逃げている男の背後から、徐々に迫りつつある『黒いナニカ』だった。

（も、もう追い付かれたのか？ 他の奴等はどうしたんだ？

……まさか俺が貧乏くじを引いちまったのか！？

あんな化物を俺一人で何とか出来る訳ねーだろが！）

そう思いながら男は後ろから来るモノをチラリ、と肩越しに見遣る。

『それ』は遠くから見ると全身が黒タイツで覆われた怪しい人に見えるのだが、近くで見ると全然別物だった。

目に当たる部分が爛々と輝き、それ以外は真っ黒で質感が一切感じられない。超怖い。

そして常に身体からは湯気のように黒い何かが揺らいでいて、普通の人なら触るのを躊躇うだろう。

強引に何かに例えるなら『闇の塊』とでも言ったところだろうか。

だが、『黒いナニカ』に触らない方がいいと感じたのはどうやら正解のようだ。

何故ならそれは邪魔な木々や大岩を『消しながら』……『男を追跡しているのだから。』

（俺のスピードに追い付ける奴はウチのギルド内でもそんなにいないのに！

やはり直線で追いかけてくる分だけ、障害物を避けながら逃げているに！

る俺より有利ってことかよ！)

そう。『黒いナニカ』に触れた部分は一瞬でごっそりとどこかへ転送されたような感じで消滅し、『それ』が通った後には、直接触れなかったために残されて放置された様々な形をした残骸があちこちにバラ撒かれているのだ。

それはまるで極小かつ強力な竜巻が通った跡のようだった。

(あんなん連れて街に帰って被害が出たら、たとえ助かっても俺等が他のギルドの奴等から吊るし上げを喰らうわ……下手したら殺されるな。

クソ！ 奴があんなバケモノだと知ってたら襲わなかったのに！)

時間は今を遡ること数十分前。

男は仲間の盗賊達と一緒に初心者と思しき男性プレイヤーを罠に嵌めて楽しんでいた。

その手法は初心者を助ける優しい高レベルなソロプレイヤーを装い、何回か偶然を装ってフィールド上でピンチだったのを助け、徐々に仲良くなって一緒に行動するようになった というある意味、王道テンプレな罠。

ただし王道ゆえに成功率自体は高いものの、目的を達成するまで酷く時間がかかる。

正直男にとって時間がかかるのは苦痛以外の何物でもなかったが、状況が状況なので今はただ我慢するしかなかった

(まったく『運営』がちゃんと仕事しねえからこんなヤバい状況になってるんだよな……だから俺みたいに精神を安定させるために他

人を平気で犠牲にするゴミクズが増えてるんだよ。

まあ経営陣からして頭の中に『リスクマネジメント』とかいう概念すら存在しなかったみたいだし、それに俺等プレイヤー側もちゃんと事故が起きた場合の緊急脱出方法とかが確立されているかとか、長時間のVRが精神に与える深刻な影響や脳に接続する機器の安全性とか色々確認すべきだったしな……今更か)

男のいう『運営』とは『NARROW運営』を指しており、実は現在進行形で緊急事態というか『デスクゲーム』の渦中だった。

それは『このVRMMORPG内での死』リアルでの死』という非情な事実を意味する。

その結果色々あって、ゲーム内に残された大多数の者は心が壊れてしまった。

そして男もその中の一人だっただけの話。

心が壊れてしまったプレイヤー達への影響は色々な形で顕れた。

不眠、食欲不振、不安神経症、統合失調症、etc、etc……

そして男の場合、それが自己愛性人格障害として顕れてしまい、他人を陥れて虐待し自己愛を満足させなくてはいけないためにこんな馬鹿げた行動をしていたりする。

だが『運営』の怠慢から引き起こされた人災ならぬ人災テロ『デスクゲーム』が始まって以降、以前とは違ってズブの初心者でも簡単に他人を信用しなくなったために、なかなか獲物が見つからない。ゆえにこの『王道テンプレ』方法が逆説的に最も成功率が高かったりする。

それでも成功する確率自体がかなり低い。実際に最初はかなり警戒された。

しかし努力のかいあってかなり初心者と仲良くなったのを見計らっ

て、予てからの計画を実行するために今回は街から少し離れた『迷いの森』に連れ出したのがついさっき。

本当はもう少し時間をかけるべきなのだが、もう男も、同じ症状持ちな仲間達も色々と限界だったために計画は前倒しで実行となった。

男は「ちよつと敵がいなか偵察してくる。ここから動かないでね」と言つてフェードアウト。

そして入れ替わるように、先に待ち構えていた仲間の盗賊が初心者に因縁をつけて一通りボコリ、持っていたアイテムや金を奪つた直後に男が颯爽と現れる。

（助かつた）と安堵する初心者の顔を男が殴り、意味が判らなくてぽかーんとした顔をした初心者にネタバレしてやったら泣きながらこつ言つてきた。

「貴方をいいひとだと信じてたのに！ 何故こんな酷い事をするんだ？」

男と仲間達は爆笑した。まるでテンプレ通りだったから。

そして嗤いも一段落してからこつ言い放つた。

「そう。その『裏切られて絶望した顔』が見たかつただけだが？」

その時の絶望しきつた顔は当然のごとくSSと脳内HDDに保存しといた。

さらに男は（このSSを見てしばらくは楽しめるな）と考えていた。どうみても人間のクズです、本当にありがとうございました。

しかし、彼等のターンはここで予想外の強制終了となった。

初心者がガクガク震えだし、まるで何かが乗り移ったかのように意味不明な言葉を話し出したと思っただけなら急に後ろにブツ倒れたのだ。最初彼等は（やべえ！ 何かの病気持ちだったのかよ？）と思って皆が慌てた。

すぐに初心者が立ち上がったので少し安心したのだが……

だがそれは早計だとすぐに判る。

一度倒れた初心者は以前と違って何かしらの迫力があつた。

最早『別人だろお前？』と言つても過言ではない変化をしており、少しビビっていた男やその仲間達にこう言い放つた。

「お前等は俺の大切なモノを勝手に取つたな？ なら俺もお前等の大切なモノを勝手に取らせてもらつても構わないって理屈だよな？」

その直後に一瞬で『黒いナニカ』に変身した初心者はあつという間もなく畏から脱出し、一番近くにいた仲間の盗賊の右腕に触れた途端、何と触れた部分が『掻き消えた』。

「それは……お前等の命だ！」

一瞬の間を置いて落ちる右腕と噴き出す血液のエフェクト、そして仲間の叫び声。

盗賊たちは一瞬硬直したものの、すぐに復活して『黒いナニカ』に反撃したのだが……

結局すべて無駄だった。

武器で斬りつけると、『黒いナニカ』に斬りつけた武器の部分がこ

っそり消えた。

下手をすれば一回の攻撃で武器が消滅した。

矢や投げナイフを放つても、『黒いナニカ』に当たった鏃の部分や投げナイフの先端部分が消えた。

そして……魔法をぶつけても魔法ごとすぐに消えるのだ。

『何このムリゲー』

それはそこにいた者達の総意。

そうしているうちに右腕をやられた仲間が『黒いナニカ』に抱きつかれ、外装を丸ごと消滅させられた。

『黒いナニカ』は、その身体に触れたモノは武器だろうが魔法だろうが全て掻き消せる。

……そしてそれが『プレイヤーの全身』でも特に変わらなかっただけの簡単なお話。

その惨劇を切っ掛けに彼らは各自バラバラに逃げ、結果的に男は現在進行形で『ソレ』に追われてピンチに陥っていた。

そして話は現在へと戻る。

障害物を物ともせずに向かってくる『黒いナニカ』の恐怖に怯えながら逃げる男は心中で他者を詰なっていた。

（ヤバイヤバイ『アレ』はガチでヤバイ！ 全然スピードとか落ちねえし……）

でもさ、何で俺ばかりがこんな目に遭うんだよ！ 他にも悪い事を平気でやってる奴なんかいくらでもいるだが！ 例えばウチのギルマスとか、ゴミクス伊蔵いぐくとかよ！（）

確かに盗賊ギルド『ブルトニウム』のギルドマスター・王国ハム太郎は正しく人間のクズだし、同じく盗賊ギルド『白理^{バクリ}』のギルドマスター・伊蔵^{いくら}も某掲示板でも『腐^くってやがる……』と言われるほどに濁り腐^くった性格をしているが、男も自分の性格を棚にあげて批判できるような高尚な性格をしていない時点で同じ穴の貉^くだったりする。

伊蔵^{いくら}だけは『同じ穴』という単語に過剰反応して喜びそうなのは全力で無視だッ！

そうしている間にも『黒いナニカ』は逃げている男との距離をギリギリと詰めてきている。

しかし男にはアレに有効と思える反撃の手段がない。

男は今、予備の武器しか持っていない。メインで使っていた槍はとつくに『黒いナニカ』によって『掻き消され』てしまっていた。

（何かないか？ 考える考える考えるよ俺！ あんな化物に真正面から勝てる奴なんかゲーム内でも片手いるかいなかだ。だったら力以外の何かで あるじゃん！ 『アレ』を倒せそうな奴が！）

男の脳裏にはある場所が浮かんでいた。『そこ』で『アレ』を倒せなければ、多分どんな手段でも倒せないだろう。それくらいの場所なのだ。

だが準備が全然足りない。『そこ』を『アレ』の墓標にするには最低でも囷役の自分以外に2人は必要なのだ。

（まだ仲間が森の中にいるならば俺が助かる可能性がある！ 早く連絡しなくちゃ！）

男は目の前にあるメインステータス画面から《フレンド》を思考操作で呼び出した。

するとウィンドウが新たに現れ、そこには男がフレンド登録したプレイヤーの名前が表示された。

だが、そのリストの中から『ブルトニウム』のタグが付いている者だけを再表示させた男は何かに動揺したようで、少しだけ逃げるスピードが落ちた。

そこへ『黒いナニカ』が迫り、ボンツという音とともに男の姿は永遠にゲーム内から消えた。

だが男が出していたウィンドウは何故か消えずに空中に残っていた。

『黒いナニカ』は爛々と輝く目でそれを見た。

そこには『ブルトニウム』のギルメンリストが表示されており、さつきまで一緒にいた仲間達の名前の上に横線が引かれていた。

これはゲーム内での死亡を意味し……同時に『リアルでの死亡』も意味する。

つまり『黒いナニカ』はたった数十分で手練だったはずの男の仲間を全員殺していたのだ。

見終わると『ソレ』は腕を振るい、ウィンドウを消し去った。

ちなみにその日の記憶を全て失った初心者が街の入り口で保護されたのは全くの余談だったりする。

プロローグ 『黒いナニカ』（後書き）

プロローグを書いてみたw

今回はNARROW ONLINEの説明回っぽい感じですよ。

ゲームから『デスゲーム』への軌跡（前書き）

この作品はフィクションです。実際の人物・団体・事件などには、
いっさい関係ありません。

ゲームから『デスゲーム』への軌跡

『NARROW ONLINE - ナロウ・オンライン - 』。
最大総プレイヤー数が19万人近かった日本最大のVRMMORPG
Gの正式名称である。
ゲームの内容を簡単に説明すると、ジャンルとしては『剣と魔法の
ファンタジー世界を舞台にしたロールプレイングゲーム』に分類さ
れる。

中高生の若年層をメインターゲットとした低料金VRMMORPG
というのが『NARROW運営』（以下、NO運営）の狙いであっ
たのだが、実際に蓋を開けてみると意外や意外。
老若男女問わず様々な年代の人々が大勢参加するという一大ブーム
を巻き起こした。

NO運営からすれば嬉しい悲鳴であった……この時はまだ。

それでは世界設定から説明を始めよう。
ゲームの舞台となる世界の名前は『NARROW』^{ナロウ}と呼ばれており、
まだ神々が肉体を持っていた頃に彼等によって四つに分けられた世
界のうちの一つという設定があつたりする。

ちなみに他の三つのうち『NICHE FAN』^{ニッチ} 『KNOCK D』^{ファン}
^{ダウン}は存在が確認できているが、互いの行き来等はそう簡単に
は出来ないという設定である。

何でも各世界間に相互侵入不可能な『多重複層型結界』が神々によ
って直々に設置されており、常人には<<<超えられない壁<<<
として立ち塞がっているから基本的に行き来は無理との事。

あとは残るひとつの世界についてだが……残念ながらゲーム内でも『語るに値しない世界』とか『腐敗した世界』とか呼ばれておらず、詳しいことは判っていない。

だがNPCからは『何だかベーコンレタス臭い感じがする!』と忌避されているという設定らしく、多分だが魔界とか地獄とかが一番イメージに近いのだろう。

どうやら設定にある創世神話によると、本来はこの忌まわしい世界だけを大本の世界から切り離すつもりだったが、どうしても単体では切り離せずに他の世界も巻き込まれる形で切り離されてしまい、今の状態になっているらしい。

しかし現在でもこの世界だけが観測不可能となっており、本当に存在するのかすら疑わしいとか。

将来的に続編を出す時に舞台となる可能性があるんですね、判りません。

あと噂では神々から認められて『トリップ』という形で各世界間移動が出来るようになるらしいが、あくまで噂に過ぎない。

ちなみに今の神々は遙か過去に起きた大戦の際に肉体を失っているが、その原因が実は『NARROW』世界にありたりするとか。

隠しボスですね、判り（ry

次にゲームのシステム面の説明をしよう。

この『NARROW』^{ナロウ}世界の最大の特徴は、世界各地に点在する様々な『遺跡』群であろうか？

しかし一見したところ巨大な森や草原しか見えず、一体どこに遺跡

なんかあるのか？ という長閑な風景だが、実は遺跡の多くは巨大な森の中に存在している。

というよりもNARROW世界では遺跡の上に樹木が生い茂った結果、その辺り一面が深い森になっていたりするので、『世界中にある巨大な森 遺跡』と考えてもいい。

遺跡を巡り練り広げられる諸国同士の軋轢や、遺跡内やフィールドを徘徊する魔物^{モンスター}を倒しつつ素材をゲットしたり、様々な『オーパーツ』と呼ばれるレアアイテムを発見して店やオークションで売却したり、その利益で更なる発掘用品や武具や回復アイテムを手に入れたりするやり込み系のゲーム……のはずだったのだが、そこで想定外の問題が発生してしまった。

今考えるとここが全ての運命の分かれ道だったのかも知れない。

後に出てくる『ギルド』のシステム自体がNO運営がゲームとして想定していた以上の進化を遂げてしまい、その結果NO運営の作った規約やシステムの穴を突くことでいくつかの遺跡がギルドの所有物となってしまうのがそもその発端である。

そうなるとその遺跡を所有するギルドに所属するプレイヤーしか遺跡の内部には立ち入れなくなり、他のギルドに所属するプレイヤーはその遺跡を一切探索できなくなってしまったのだ。

そのため特定の遺跡でしか出現しない魔物から得られる素材が当該遺跡所有のギルドによって独占される事態が各地で多発。不満を抱いた他のギルドやソロプレイヤーが運営に通報するが何故か対応されずじまい。

その結果、ギルド側の市場操作もあって需要と供給のバランスが大きく傾いたために一気に供給不足となった素材の価格は暴騰し、他

のギルドやソロプレイヤーに多大な損害を与えることになった。遺跡所有ギルドの勝利であった。

だが一方的にやられた側も黙ってはいなかった。

その内容は、遺跡所有ギルドに対して武具やアイテム等を販売する際に、意図的な値上げを行ったのだ。

彼等は『目には目を。歯には歯を。』を実践したのである。

ちなみに遺跡所有ギルドはこの際に『独占禁止法がどうこうだからルール違反だ!』とNO運営に対して通報したらしいが、あまりに大きすぎるブーメランだったためにスルーされた。

だがお互いに意地を張り続けた結果、あるアイテムの品薄が他のアイテムの価格を高騰させ、それがさらに他のアイテムの価格を……という風に、インフレが有機的反応が加速した結果、ゲーム内で予期せぬハイパーインフレが発生してしまったのである。

もはやプレイヤー同士では收拾するためのハードルが半端ないレベルにまで至ってしまったのに加え、止めとばかりに遺跡所有ギルド側がこのタイミングでRMT（リアルマネートレード）を行い、ゲーム内の経済は完全に破壊されてしまった。

まさに『運営ちゃんと仕事しろ!』という最悪の一手手前の状態である。

当然の話だが、以前から他のプレイヤーはNO運営に何度も通報し続けていた。

しかしNO運営の対応は非常に遅く、ようやく為された対応もギルド側に有利な内容だった。

実は最初に遺跡の所有権がギルドに乗っ取られた際にもNO運営側はほとんど監視らしい監視をしていなかったことが全ての始まりで

あり、後から知った社員が必死に隠蔽工作をしていたためでもある。さらに悪い事にその社員はRMTにも深く関与していたため、NO運営上層部は今回の不祥事を隠蔽するとともに当社員を内々に処分し、遺跡所有ギルド側へは口止めの代償として『規約を改定した以降の同行為の禁止』という甘い処分で済ませてしまったのだ。

つまり既にギルドが所持している遺跡の所有権はギルドのものと公式に認めてしまったのである。

この処分に関与したプレイヤーもいたが、批判的なプレイヤーに対してNO運営はあるうことかアカウント削除を強行。

その結果見切りをつけたプレイヤーの大多数が『NARROW O NLINE』を後にした。

しかし事態はそこで終わらなかった。

反発した一部の馬鹿プレイヤーがアカウント削除の逆恨みから、京都府F区にあるNO運営会社を襲撃。

NO運営社員から多数の死傷者を出したのち、『NARROW O NLINE』内にいるプレイヤー約3万人・そして生き残ったNO運営社員を人質に占拠・掌握してしまうという一大テロ事件へと発展してしまっただ。

それから襲撃犯と京都府警との長きに渡る交渉戦が始まるのだが、それはまた別のお話。

そして……その事件の裏では密かにある事件がゲーム内で起こりつつあった。

だがその時点で気づいた者は現実世界では誰もいなかった……それを実行した犯人以外には。

その事件とは、後に『ナロウ事件』とも『デスゲーム事件』とも呼ばれる大量殺人事件である。

ゲームから『デスゲーム』への軌跡（後書き）

次話はデスゲーム開始以降のゲーム内の描写予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7109y/>

NARROW ONLINE-ナロウ・オンライン-

2011年11月28日06時58分発行